

天武天皇伝承

てんむてんのうでんしよう

宇治拾遺物語

天武天皇の煮栗焼栗

天武天皇にまつわる話は、宇治拾遺物語巻十五に収録された「清見原天皇、与大友皇子合戦事」で語られています。

「大化の改新」を成した天智天皇の弟である大海人皇子は皇太子でしたが、天皇の御子である大友皇子が太政大臣として政に携わっていました。

天皇が病になったとき、大海人は出家するといって吉野にこもりますが、これを危険視した大友は謀殺しようします。大海人は、大友の妻となった娘の十市皇女がフナの包み焼きに隠した手紙で身の危険を知らされ、身分を隠し山を越えて北に向かい、数日して山城国田原にたどり着きました。

里人は来訪者にただならぬ気配を感じ取り、高杯に盛った焼栗やゆでた栗を差し出しました。大海人はそれらの栗を「願いがかなうならば芽を出せ」と埋めて里を後にし、伊勢を経由して美濃に入りました。

多くの兵を連れて近江に戻った大海人は大友の軍を打ち破り（壬申の乱）、大和で天武天皇として即位しました。

やがて埋められた栗は芽生えて栗林となり、そこで産した栗は田原の御栗として献上されるようになりました。

以上が話の概要ですが、宇治田原の伝承では大海人は近江から吉野への道中に田原へ立ち寄ったとされています。

かつての広大な栗林は開墾されて茶園となりましたが、今御栗栖神社の横には新たな栗園が作られています。

天武天皇伝承～宇治拾遺物語

「宇治拾遺物語」は、鎌倉時代に成立したと思われる説話集で、仏教的説話以外にも世俗的な話や伝承など多彩な内容で構成され、中には昔話として有名な「わらしべ長者」「こぶとり爺」「雀の恩返し」も含まれています。編者は不明ですが、源隆国が編纂したという「宇治大納言物語」から漏れ落ちた話題を拾い集めた続編であるともいわれます。

物語に収録された天武天皇にまつわる話には宇治田原が登場し、舞台とされる南地区ではその伝承にまつわる石碑が建てられています。

南地区には他にも、鎌倉幕府に対抗し南北朝の動乱を戦った後醍醐天皇の伝承にまつわる地名も残されており、このコースではこうした伝承の舞台となった地を巡ります。

コース始点には案内板、道中には道標を設置し、町HPにコースガイドを掲載しています。

全行程：約7.5km
所要時間：約4時間（見学・休憩含む）
高低差：約110m
消費カロリー：約756kcal(体重60kgの人が平地を歩く計算)
交通アクセス：
JR奈良線「宇治」、京阪「宇治」、近鉄「新田辺」から京阪宇治バス「維中前」「工業団地」「緑苑坂」行に乗車最寄りバス停「役場南」「下町」「郷之口」

犬打川

鎌倉幕府の打倒を計った後醍醐天皇は、元弘元年（1331）8月に幕府軍から逃れるため奈良へ赴きますが味方するものが少なく、鷲峰山へ移りましたが、あまりに人里から離れすぎているため、笠置山を仮の御所としました。やがてそこも幕府軍との戦いで陥落すると、天皇一行は身をやつして井手の有王山へ落ち延びました。

宇治田原の伝承では道中田原の南で野犬に激しく吠えたてられたので、これを打ち殺し、以来付近の川を「犬打川」と呼ぶようになったといわれています。

犬打川は南地区を南北に流れ、その上流部の和束町への道中には「犬打峠」があります。

南
みなみ



龍王の滝



御栗栖神社の大杉

南地区は「切林」「名村」「老中（おいな）」「符作（ふづくり）」の旧村で構成され、宇治田原で最も広い平野にあります。この地に鎮座する御栗栖（みくるす）神社が田原郷の「郷社」であったこと、昔の条理（碁盤目状の土地区画）がよく残っていることはここが古くから開けた土地であることを物語り、大和と近江を結ぶ交通路が通る地でした。

田原祭（三社祭）

10月の「体育の日」前の木曜日から日曜日に開催される田原祭は、南の御栗栖神社（一の宮）、荒木の太宮神社、立川の三宮神社の祭礼で、「神幸祭」では三社の神輿がお旅所に集合し、「還幸祭」で各社に戻ります。お旅所には「宮座」が設置され、舞物（京都府登録文化財）や駆馬が奉納されます。

起源は不明ですが、伝承では藤原秀郷（依藤太）が平将門の乱を鎮めた功績で田原の領主になったことを祝ったのがはじまりとされ、代々特定の一族で継承される宮座の制度や、春日若宮の「おん祭」などと共通する芸能などに中世の面影を感じさせます。

郷之口
きょうのくち



田原祭お旅所



田原小学校校門

郷之口は田原郷の西の入口で、毎年10月に催される「田原祭（たわらまつり）」ではお旅所に集合する三社の神輿がいずれも郷之口を経由して巡行します。

お旅所近くには源氏が拳兵した「宇治川の合戦」で平氏方として活躍した「田原又太郎（足利）忠綱」がこの地で亡くなったという伝承と墓地があります。



御栗栖神社